

9月号からの連載です。道路は生活に欠くことのできない基本的な社会資本ですが、あまりに身近な存在のため、その重要性が見過ごされがち。

8月10日の「道の日」を中心に、県内各地で開かれたイベントの様子をご紹介します！

もうひとつの「塩のみち」～旧伊保内街道～

8月10日

久慈地方振興局土木部

主要地方道一戸山形線は、旧山形村から一戸町に至る道路です。このうち旧山形村の日野沢から九戸村の伊保内までの区間は「伊保内街道」と呼ばれ、現在の県道の北側を通過しており、塩をはじめ、生活に必要な物資を運ぶ人、牛、馬が行き交っていたとのこと。

「塩の道」といえば、野田から平庭峠を経て盛岡や秋田県の鹿角まで塩を運んだ塩の道が有名ですが、旧伊保内街道も塩が運ばれていたということから、「もうひとつの『塩のみち』」というタイトルを掲げました。

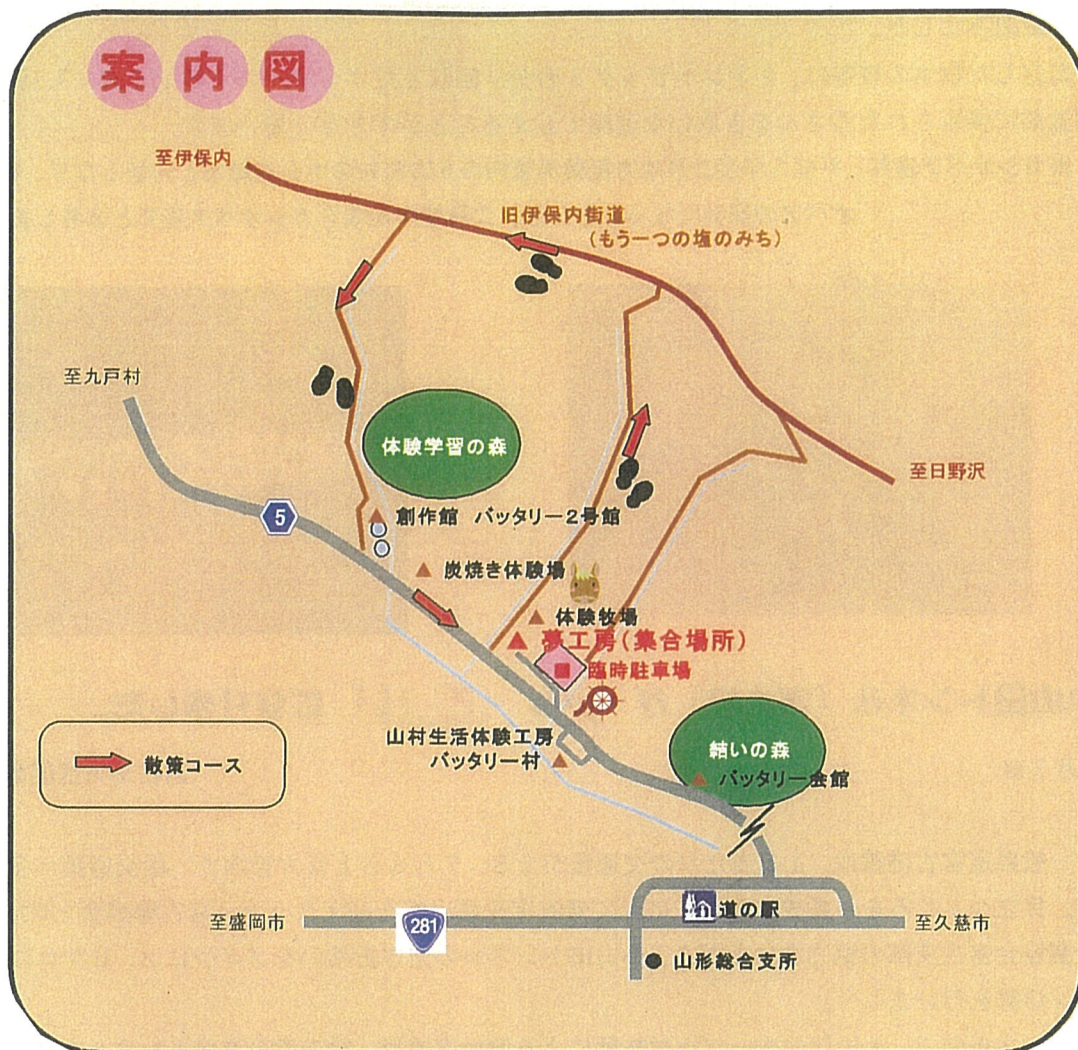
イベントでは、「一戸山形線の歴史と景観を考える会」の木藤古徳一郎バッテリー村長から、講演をしていただいた後、木藤古村長を先頭に旧伊保内街道約2kmの道のりを歩きました。

木藤古村長は、説明の中で旧伊保内街道は、塩を運んだだけでなく、生活に必要な物資を内陸から運んだ「命の道」でもあるということ。また、今回は約300mしか歩きませんが、今後、道の日イベント等を通じて旧街道を全て踏破し、広く紹介したいという話がありました。ちなみに、旧伊保内街道は、市販の地図上にもそれらしき線が引いてありますが、地図によって一部区間のルートが違っていたり、途中で途切れていたりしています。踏破することで、真のルートが確認できるものと思います。

なお、今回のイベントは、一般参加者2名、振興局と市町村の職員21名、建設業協会久慈支部青年部会25名のほか、一戸山形線の歴史と景観を考える会2名、バッテリー村住民7名（うち6名は滞在中の東京農業大学生）の、合計57名の参加がありました。バッテリー村住民の方には、事前の草刈りや、当日の道案内等のご協力を、また、建設業協会には看板設置や駐車場で誘導等のご協力をいただき、みんなで汗を流した貴重なイベントになりました。

今回は一般参加者が少なかったため、次回は、もっと参加しやすいよう工夫していきたいと考えています。





二戸地区「北の道クリーンキャンペーン」22路線約300km無事終了

8月3日

二戸地方振興局土木部

キャンペーンは、岩手県建設業協会二戸支部青年部が平成5年度からはじめて今年度で15回目になります。

今年は、国、県、市町村が後援として加わり、道路関係者が一丸となって、カシオペア連邦(※)を結ぶ国道、県道、市町村道のクリーンキャンペーンを行いました。

青年部が二戸市と一戸町の小公園や街路樹の剪定作業等を行い、その他が管内の道路22路線、約300km(盛岡東京間の約6割の長さ)の清掃活動を行いました。

清掃した主な路線-国道(4号、340号、395号)、県道(二戸田子線、二戸五日市線、二戸九戸線、軽米種市線、戸呂町軽米線、軽米九戸線、一戸山形線、一戸葛巻線)、市町村道(二戸市、軽米町、九戸村、一戸町)

参加人数は108名(青年部:35人、国3人、県44人、市町村26人)で、当日は台風5号が東北地方に接近しており、曇り空ながら気温は30℃近くある中、汗だくになりながら約3時間の清掃活

動に取組みました。

剪定した樹木の枝等は、2 トントラック 5 台分、回収したゴミは、ゴミ袋 124 袋にも及びました。お盆前に帰省された皆さんをきれいな道路で迎えることができましたと思います。

※カシオペア連邦：平成3年度二戸地方振興局管内の5市町村の中心を結ぶとW型となり、星座のカシオペアの配列になることから、二戸管内地域をカシオペア連邦と命名しました。



小山田トンネル（宮古市）が 少し **きれい** になりました。

8月2日

宮古地方振興局土木部

一般県道宮古港線は、1日当たりの交通量が18,768台と宮古管内で一番交通量が多い道路です。目立つところを一番先にキレイにして帰省客や観光客を迎えようと、宮古警察署と(財)岩手県建設業協会宮古支部の協力をいただき、小山田トンネルの空き缶拾いをメインに2.6キロの道路クリーン活動を行いました。

トンネル前で、土木部のホープ田村技師による開始宣言後、参加者全員がトンネル内に入り、宮古警察署の協力による全面通行止めを合図に、総勢84人が一斉に車道に出て空き缶などを拾いました。作業時間はわずか10分間でしたが、トンネルだけでゴミ袋30袋、全体では50袋というバツグンの成果を挙げました。

